

第91回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 大山 要

(長崎大学病院 教授・薬剤部長)

2023年11月18日(土)に長崎大学医学部記念講堂において、第91回日本医療薬学会公開シンポジウムを対面にて開催いたしました(主催：日本医療薬学会、共催：長崎県病院薬剤師会、後援：長崎県薬剤師会)。当日、長崎は今年一番の冷え込みを記録するなかで、県外からの参加者を含む35名(病院薬剤師会23名、保険薬局薬剤師3名、その他9名)の先生方にご参加いただきました。

シンポジウムのテーマは、「臨床研究に一步踏み出そう～薬剤師の楽しみを知るために～」といたしました。まず、特別講演として、岡山大学病院の座間味義人先生から「データサイエンスを活用して先進的な医療薬学研究」のご講演を賜りました。医療情報データベースの特徴、データベース解析や機械学習の活用で特定した薬剤の新たな効能、副作用のリスク因子の抽出、副作用を抑制する薬剤の探索など、データベース解析や機械学習と基礎薬理学的手法を融合した研究例を数多くご紹介いただきました。ヒトにおける有用性・副作用を臨床研究によって調査することで、そのエビデンスを確固たるものへと昇華することに成功した数多くの事例に触れていただき、データサイエンス研究の最先端をいく魅力あふれるご講演を拝聴することができました。

シンポジウムでは福岡大学薬学部の牛尾聡一郎先生(「ICTで進化する薬剤師と臨床研究-今、私たちに何ができるのか?-」)には、薬剤師の視点から取り組む情報技術を活用したシステム開発研究、特に医療用ノンバーバルコミュニケーションツールと医療特化型学習システムの開発を中心に講演いただき、長崎大学病院の橋詰淳哉先生(「がん薬物療法に伴う有害事象の事前予測および防止に向けた調査研究」)には化学療法を受ける患者さんの有害事象を防ぐことを研究のモチベーションに据えることで実臨床に直結する研究を展開できるという内容のお話をしていただきました。都城市北諸県郡薬剤師会の吉田啓太郎先生(「保険薬剤師が研究に一步踏み出した理由」)には臨床研究の動機をクリニカルクエスチョンの解決に置くことで合目的な研究立案が可能で考え抜いた症例報告が研究の第一歩として適切であるという教育的な内容をお話いただき、光晴会病院の成末まさみ先生(「薬局におけるあじさいネットの活用状況および有用性の調査」)には子育てを終えたタイミングで臨床研究に取り組みたいと一念発起し計画されたシームレスな薬薬連携の重要性に関する研究をリスクリングという観点も踏まえ講演いただきました。

最後になりましたが、遠路長崎までお越しいただき、すばらしいご講演を賜りました演者の先生方をはじめ、休日にもかかわらず熱心にご参加頂いた参加者の皆様、そして会場準備や企画・運営にご支援・ご尽力いただいた長崎県病院薬剤師会・長崎県薬剤師会の関係各位、さらには準備段階から種々ご対応いただきました日本医療薬学会事務局の皆様にも深く御礼申し上げます。